

---

# 地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

---

## 錦田小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）  
 △：H23.06.08 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」  
           「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」  
 ▲：H23.10.06 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」  
           「2 ごみ問題と美しい地域づくり」  
 ○：H24.07.03 テーマ「みんなでふれあい創出」  
 ●：H24.11.01 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」  
 ◇：H25.06.06 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」  
 ◆：H25.10.31 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」  
 □：H26.06.05 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「地域の連携」  
 ■：H26.11.04 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。  
           テーマ「①地域で子ども会をサポートしていく方法を考えよう！」(P6 掲載)  
           「②地域で活動している団体同士をつなぐ場について考えよう！」(P7 掲載)

◎：市の意見・回答  
 ⇒：課題解決に向けた取り組み事例

(※拙い手略称 自：自治(町内)会、民：民生委員、子：子ども会、体振：体育振興会、老：老人会、地：地域づくりコーディネーター)

	課題	担い手	
防災訓練	①訓練内容	<p>⇒●「黄色いハンカチ」を掲げ、向こう3軒両隣で安否確認を実施。訓練参加者が増加。(東富士見)</p> <p>●住民の参加促進には「黄色いハンカチ」などの仕掛け作りが大切。</p> <p>●町内訓練で HUG を行い好評だった。その後の具体的な指示がほしい。</p> <p>○●普段の生活から防災を取り入れ(生活防災)、お祭り等で親睦を深めていきたい。特に連携が必要。</p> <p>⇒●運動会は人が多数集まるため、運動会で消火器訓練実施。(御門)</p> <p>⇒◇老人会対象に図上防災訓練実施。多くの高齢者に参加してほしい。</p> <p>⇒◆防災用タンクからの放水訓練では、小・中・高校生も参加した。</p> <p>◎要援護者に渡している笛を訓練時に吹いて、要救助の笛の音を町内で共通認識してほしい。笛の音を皆さんが知らないと、何の音かわからない。</p>	<p>自</p> <p>校区全体</p> <p>自</p> <p>自・老</p> <p>自・中・高</p>
	②要援護者の把握と救助	<p>⇒●敬老祝い金配布時に高齢者を把握。</p> <p>◇要援護者リストの活用や、要援護者の救助方法を考えていく。</p> <p>◇要援護者リストに、本当に救助が必要な人が入っていない。</p> <p>⇒□一昨年より準備し全員の世帯台帳を作成し、詳細に把握。(緑ヶ丘)</p> <p>◎町内の世帯台帳作成は、大災害時の安否確認に非常に大事。ぜひ各町内で取組んでほしい。</p> <p>◆各町内会長は、民生委員の一人暮らしの高齢者調査に同行し、要援護者情報を伝達してほしい。</p> <p>□民生委員を出していない町内がある。早急に体制を整える必要がある。</p> <p>□理学療法士や介護福祉士に専門的なアドバイスを受けたり、町内に福祉施設のある自治会は、一緒に訓練を行ない、交流しながら具体的な搬送方法を皆が学んでいってはどうか。</p>	<p>自</p> <p>自・民</p> <p>自</p>

	課題	担い手
	<p><b>③防災体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●役員は1年交代。学校等との連携を考えると期間が短い。</li> <li>●錦田自治体連合協議会として、避難所運営のサポートを考えたい。</li> <li>□避難所運営をするにあたり、個々の家庭が安全に避難できるような人的配置、また救助後の搬送先(病院、福祉施設)の情報収集(収容可能人数等)や連携について、話を詰めていく必要があるのではないか。</li> <li>●避難所での避難者の把握や点呼など、対応を知りたい。</li> <li>●◇学校機能から避難所機能に移行する訓練、避難所開設訓練を行いたい。</li> <li>●◇錦田小は避難所兼、市内4箇所の救護所の一つ。各町内から専門スタッフに出てもらいたい。</li> <li>◎夏梅木川や大場川の氾濫について、町内の対応を話し合ってほしい。</li> <li>◎液状化の危険地域や対策については、市に問い合わせしてほしい。</li> <li>◇□道も壊滅するような事態を各自治会で想定し(孤立した場合の避難先など)、何ができるかを考えてほしい。学校も出来るだけの準備をする。(錦田小)</li> <li>□地形の特性を踏まえた防災、総合的な体制作りが求められる。</li> <li>□まず各町内会単位で話を詰め、それを連携していく方がいい。</li> <li>◇自治会未加入者の把握ができていない。災害時の対応が課題。</li> <li>⇒◆自治会未加入者の対応策として、自主防災会に登録しない場合、緊急時支援できないことを明確にした。(緑が丘)</li> <li>◆自主防災会で全体を掌握後、隣組による救助活動等を考えたい。(緑が丘)</li> </ul>	<p>自 校区全体</p> <p>自・小・中</p> <p>自</p> <p>自・小</p> <p>自</p> <p>自</p>
	<p><b>④幼・小の防災体制整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども園に幼児が約400人いるという地区の認識も必要。</li> <li>●子ども園でもいずれ備蓄(水ペットボトル1本、軽食1食分など)を用意したい</li> <li>●学校の防災の取り組みや訓練を、自治会で取り上げてみてはどうか。</li> <li>⇒◇教育委員会を通し、文科省の親子防災キャンプを企画実施。</li> <li>◇将来的には自前で親子防災キャンプを行えるといい。</li> </ul>	<p>子ども園</p> <p>自・小 小</p>
	<p><b>①地域の連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子どもの問題にはすぐに対応するので、学校に連絡してほしい。</li> <li>⇒◆錦田中でサポーターズクラブが活動開始。(錦田中PTA)</li> <li>◆サポーターズクラブの活動を通じ、子ども達と面識を持ちたい。</li> </ul>	<p>小 中・PTA</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">子どもの健全育成</p>	<p><b>②挨拶の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校で挨拶を指導、習慣化し、挨拶の大切さを教えて欲しい。</li> <li>⇒◆小・中学校で挨拶促進。(挨拶チャンピオンや、あさげ運動など)</li> <li>⇒◆□錦田中に行くと8割の子が挨拶してくれた。とてもいい雰囲気になっている。挨拶運動を進めてほしい。</li> <li>◆□挨拶や道徳は学校ではなく家庭の問題。大人も子どもも個人差が大きい。子ども達の挨拶の状態を親が知る機会を作りたい。</li> <li>◆子どもも大人も明るく挨拶できる地域社会になることが大事。</li> <li>□挨拶は家庭から。家庭から学校、地域での挨拶運動になる。まずは家庭で、挨拶の意識を持つようにするといい。</li> </ul>	<p>小・中 小・中 中 小・中・PTA 校区全体</p>

	課題	担い手
	◆挨拶のテクニックとしては、低学年は大声、高学年は丁寧に、中学生は継続する中でわかってくる。また、場面に応じた言葉がけをするなど、考えながら挨拶するといいい。	
	③子どもの見守り ◇登下校時の見守りをシステム化できるといい。 ◎各町内でボランティアでやって下さる方を発掘してほしい。 □下校時が魔の時間。ウォーキングしている方へ広報(放送)を使って呼びかけたり、挨拶運動のバッジの配布、腕章を作るなど検討してはどうか。 ◆不審者対策として、顔と名前がわかるような流れを作りたい。 ◆□伊豆縦貫道のインター開通にともない朝の車の交通量が増加。速度の速い車も多く非常に危険。子ども、高齢者も多い地区なので、話し合いが必要。 □見守りの人数を増やすか、時間帯によって速度制限(30キロ以下)をしてはどうか。行政や警察署とも関係するので、相談しながら解決していく必要がある。 ◇小学生の送迎時、駐車場が不足している。対策が必要。	小 校区全体 小・市
	④子ども会の存続 ○子ども会再開をきっかけに地域活動を活発にしたい。(小山中島) ◇子ども会が盛り上がる方法があれば、意見を聞きたい。 ○共働き世帯の増加、世帯数の減少により役員の負担が大きくなっている。親の役員負担をどうするか考えるべき。 ⇒◇子ども会会長のなり手がおらず、祖父が引き受け活動を継続。 ◇□このままでは自然消滅する状況。何か助けて頂けるのなら、お願いしたい。 □子ども会のサポートについて地域で、具体的に何が出来るか考えてほしい。 →【■①テーマ別会議(P6)に発展】	自・子
高齢者	①高齢者の支援 ⇒◆敬老会で自主的な座談会の開催案が提案された。 ◆会を発展させるよう、うまく引っ張ってくれる人がいると良い。 ◆それぞれの地域の事例を参考にし、真似してみると発展がある。事例の共有が大事。(例:健康づくり・挨拶運動を兼ねた散策)	老 校区全体
	②老人会の存続 ○高齢者はパソコンができないから書類を作るのが大変。 ○□老人会へ退職後間もない若い世代が入ってくれないことが課題。一番の悩みは後継者がいないこと(特に男性)。 ⇒◇□錦田幼稚園を訪問し交流した活動が市から表彰された。老人会と子ども会、自治会の連携があり活発な活動を行なっている。(御門御晴会) ⇒◆老人会で毎月一回定例会。食事会・温泉・輪投げなど実施(桜ヶ丘)	校区全体  幼・老・自・ 子 老

	課題	担い手
地域の連携	<p>①各団体の連携と組織運営</p> <p>○ふれあい創出のための活動を各自治会だけで行うことは大変。活動を継続するには、協力できる組織作りが大切。</p> <p>⇒○「錦田のあしたを考える会」には下部組織があり、ふれあい活動が活発に行えている。</p> <p>○□体育振興会が衰退し、つながりが希薄。自治会と振興会の連携が大事。</p> <p>◇「豊かな心を育てる会」を様々な地域の問題を討論し、解決する会にしたい。ぜひ参加してほしい。</p> <p>◇毎年、自治会だけで各団体の役員を推薦するのは困難だが、なんとか各町内から民生委員を選出してもらいたい。</p> <p>□自治会、体育振興会、民生委員などと連携しないと、自治会活動や自主防災会活動も上手くいなくなる。各団体と顔を合わす機会が必要だと思う。</p> <p>→【■②テーマ別会議(P7)に発展】</p> <p>□高齢化で昔と人員構成が変わった為、昔はできたことが今は同じ様にはできない。新たな人員構成や、団体(趣味の集まりなど)との連携を考える。</p> <p>○地域づくりコーディネーター育成の中で、子ども会や老人会事務局の負担軽減も検討してほしい。</p> <p>◇市の会合や活動を土日に行うことを考えてほしい。</p> <p>◆各組織の課題や目的を整理し、組織のスリム化作業を行うべき。</p>	<p>校区全体</p> <p>自・体振</p> <p>自・民</p> <p>校区全体</p> <p>市・地</p> <p>市</p>
	<p>②花・環境美化</p> <p>○子ども園周辺に花畑を作らせてもらっているが、錦田を花でいっぱいにする活動を行っていきたい。</p> <p>○特に子どもは公園の使用状況が悪い。子どもの公の場での行動について各家庭で指導してほしい。</p>	<p>校区全体</p>

■H26. 11. 04 テーマ①「**地域で子ども会をサポートしていく方法を考えよう！（子ども会が消滅の危機）**」

(テーマ①班：参加人数 6 人)

●錦田地区の子ども会の現状とそのサポート方法や廃品回収の問題点、遊び場の周知などについて皆で話し合いました。

★子ども会廃品回収に地域の協力を！

子ども会の廃品回収ができない

- ・廃品回収を回覧で周知すると、業者が来て持って行ってしまふ
  - ・役員が業者に怒りを浴びせられた
  - ・警察沙汰になったこともある
  - ・法的には処罰されない（現行犯のみ取締り）
  - ・廃品回収は子ども会の**資金源**であり、地域の方との**交流の場**でもある
  - ・廃品回収業者を止めてほしい
- ⇒地域でまとまって対策できないか？

アクション ■地域で取締まる

- ・廃品回収は子ども会が主体としてやるが、「業者を制止する」など、地域の方の協力があるとありがたい

★親子が安心して遊べる場（公園）の周知

子どもの遊び場所はどこ？

- ・子どもの遊ぶ場所は少ない
- ・どこで遊んでいるのか？

アクション ■遊び場紹介のパンフレットを作ろう！

- ・小学生は大きくなると遊ぶ範囲が広がる ⇒保護者や子ども会・小学校などへ、錦田地区にある公園を紹介しては？
- ・錦田地区の公園パンフレットがあるとよい
- ・行政は公園管理&公園紹介をしてほしい

子ども会は町内の子どものコミュニケーションの場であり  
地域防災でも必要な組織。町内でサポートしていく方法は？

小山中島子ども会の現状

- ・4年前役員が決まらず休止。翌年子どもの所在が全く分からず、災害時の対策の必要から復活
- ・みんな会長をやりたがらない（やれる人が何度もやることになってしまう）
- ・「親と一緒にいけないから子どもも子ども会イベントに参加できない」と言う母親が多い
- ・企画しても活動がままならない
- ・母親の協力がないと子ども会も成立しない

子ども会に入っている**母親の協力が得られない！**

今のお母さん達の現状

- ・核家族や共働きの増加⇒役員が負担
- ・子ども会役員は「損」という考え
- ・自分さえ良ければそれで良いという考え
- ・地域主催なら協力する（町内が主体なら良い）
- ・自主的に動く母親はほとんどいない

「母親が出なくても、子どもだけ出せばいい」というシステムがない。今の状態では子ども会の人数は少なくなるばかり・・・

アクション ■PTAに子ども会活動周知に協力してもらおう

- ・できれば小・中学校 PTA 役員から「子ども会活動に子どもだけでも参加できる」と、親に話してほしい（押切町内会では親がいなくても参加）

地域の子どもの現状

- ・各地区の子ども会会員が少なくなり、イベントに子ども会を招待しても参加が少ない
- ・子ども会より少年団や習い事優先
- ・子ども会主体でしゃぎり実施  
⇒今年は4年生の参加者0人（押切町内会）
- ・子どもが高学年になると、子ども会役員をやりたくなくて参加しなくなる

アクション ■子ども会会員の募集方法を工夫（押切町内会）

- ・今迄回覧だけで募集⇒個別に訪問し勧誘する
- ・写真などを交えて周知する

アクション ■地域で親を育てる

- ・地域・町内が子ども会と一緒に活動することで、まず親を育てていく

アクション ■将来につながる子ども会サポート

- ・地域の青年団や老人会に、活動時子どもを見てもらうことなどを頼めるシステム作り
- ・子ども会・町内会の横のつながり、交流を増やす

親を育て、親を変えていくのは地域。  
地域で議論を深め、子ども会を支えるシステムを構築しよう！



■H26. 11. 04 テーマ②「地域で活動している団体同士をつなぐ場について考えよう！」

「有事の際」と「日常」のネットワークは区別する!!

(テーマ②班：参加 15 人)

【地域の現状】

・日中は 550 人の幼児、600 人弱の小学生、約 500 人の中学生がいる地域。

- 1 地域コミュニティ連絡会
- 2 学校安全会
- 3 錦田小地域支援本部
- 4 スクールガード
- ⇒組織設立の役員やボランティアのなり手がいない
- 5 豊かな心の育成会議

**共有**  
これら団体がどう  
共存できるか？

・昔からの地区であり、心ある人もたくさんいる地区であるけれど…。地域の総意とは？（全員が集まっている訳ではない）

★ネットワーク構築が大切！

【有事の際のネットワーク】

- ・先日の発砲事件。個人的つながりによる連絡が早かった。（地域の横の情報共有）
- ・公立と私立幼稚園で、同じ情報が届いていなかった。
- ・メールはすぐ見られないので駄目。電話連絡が良い（地域内の連絡はアナログ）
- ・情報源は一つであるべき。正しい情報の発信。
- ⇒**緊急ネットワークの情報システムの構築が必要。有事の時は危機管理課、警察を中心に！情報の一元化。**

【日常的なネットワーク】

- ・小学校校長先生が小学校区全域を回って、幼稚園にも声をかけてくれる。（歩く情報源）
- ⇒**きめ細かく声かけ・巡回が行えれば、日常的ネットワークになる。**
- ・私立・公立関係なく、何かあった時に連絡ができる顔のつながりが必要。
- ・小中学校では台風の際など電話で連絡を取り合っている。保育園・幼稚園・地域にも広げていければ。
- ⇒**学校だけでなく、自治会や地域の団体とコミュニケーションを持てる場を作る。** 

◆「つなぐ場」って何？（どんなイメージか）

★知り合う場・助け合える場

- ・お互いの活動(機能)を知り、助け合えることはないか考える。
- ・団体の活動内容を知ってもらう(発表する)。良いことは取り入れる。
- ・お互いの共通した目標はないか(地域目標)？

★拡大の場

- ・PTA が中心になって広がっていったが…
- 交流が限られている。広げるための場があれば。

★各団体の情報共有・情報交換の場

**お互いの活動を  
知りあう場**  
⇒協力関係へ発展できる

■どこから始めるか？ 始めの一步！

- ・学校、高齢者、いろんな団体と話したい。代表者が集まってテーマに沿って細分化して話し合いができればいい。

⇒**まずは集まり、お互いを知りあうことから始めよう!!**



◆「つなぐ場」に期待できること！(期待したいこと)

【具体的な活動】

- スポーツ振興 
- 地域で防犯訓練
- 子どもたちと高齢者が接する場／高齢者を元気にする場(若い人から)
- 学校、PTA は地域から受けるばかりなので、生徒と一緒に地域の為に活動していく(方針)。地域と Win-win の関係を構築したい。
- 自治会連合会と各団体との連携
- 市民の交流(1 自治会、2 町内、3 友人、4 ボランティア)
- 介護予防活動を広げたい／認知症になっても安心して生活できる地域づくり。
- 既存団体の統合と発展  
集まる顔ぶれはどの会議に行ってもほぼ同じで、新しい組織を作るのは負担。  
⇒負担軽減のために統合し「皆さんに参加してもらう」。そして「実のある会として解決の場」に発展させたい。
- 持続

※課題：小学校、中学校、連合自治会、避難所など全部エリアが違う。くくりが違うので話し合う内容によって参加者が異なる

# 補足資料

## きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度 錦田小学校区きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	各種団体	保・幼・小・中
ヴァンヴェール遺伝坂自治会	環境美化推進委員会	錦田保育園
押切町内会	民生委員児童委員協議会	恵明保育園
御門自治会	保健委員会	錦田幼稚園
桜ヶ丘町内会	消防団第 6 分団	錦田幼稚園 P T A
市営谷田住宅自治会	消防団第 7 分団	私立桜ヶ丘幼稚園
小山自治会	エコリーダー	錦田小学校
小山台自治会	錦田女性学級	錦田小学校 P T A
小山中島自治会	錦田のあしたを考える会	錦田中学校
雪沢自治会	地域づくりコーディネーター	錦田中学校 P T A
谷田自治会	地域包括支援センター	学校支援地域本部
竹倉自治会		
塚原自治会	<b>老人クラブ</b>	<b>子ども会</b>
東富士見自治会	御門御晴会	御門子ども会
柳郷地自治会	桜ヶ丘桜寿会	谷田子ども会
緑ヶ丘自治会	並木町福寿会	東富士見子ども会
玉沢町内会	緑ヶ丘 P・P クラブ	小山子ども会
松が丘自治会	旭ヶ丘旭寿会	小山中島子ども会
西富士見町内会	喜楽会	柳郷地子ども会
谷田城の内自治会		桜ヶ丘子ども会
塚の台町内会	<b>スポーツ関係</b>	
並木自治会	スポーツ推進委員会	
柳郷地市営住宅自治会	錦田小学校区体育振興会	
錦田地区自治会連合会	体育指導員会	

（平成 23 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）  
 △：H23.06.08 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」  
           「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」  
 ▲：H23.10.06 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」  
           「2 ごみ問題と美しい地域づくり」  
 ○：H24.07.03 テーマ「みんなでふれあい創出」  
 ●：H24.11.01 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」  
 ◇：H25.06.06 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」  
 ◆：H25.10.31 テーマ「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」  
 □：H26.06.05 テーマ「防災訓練」「子どもの健全育成」「地域の連携」  
 ■：H26.11.04 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。  
           テーマ「①地域で子ども会をサポートしていく方法を考えよう！」(P6 掲載)  
           「②地域で活動している団体同士をつなぐ場について考えよう！」(P7 掲載)

◎：市の意見・回答

(※担い手略称 体振会：体育振興会、地域CN：地域づくりコーディネーター)

	現況	課題	担い手	結果・実績
<b>1. 防災訓練</b>				
<b>①訓練内容</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訓練時、リヤカーを展示。興味を持つ組がいくつかあった。(桜ヶ丘)</li> <li>●台所を想定した消火訓練が主婦に好評だった。(谷田)</li> <li>●「黄色いハンカチ」を掲げ、向こう3軒両隣で安否確認した。参加者が増加し、80%以上がハンカチを掲出してくれた。(東富士見)</li> <li>●自主防災研修会の HUG 避難所運営ゲームに参加。町内防災訓練で実際に行い好評だった。(並木)</li> <li>●役員対象に、避難所運営訓練、防災センター見学実施。老人会対象の図上訓練も行った。運動会では人数が集まるため、消火器訓練を行った。(御門)</li> <li>○図上訓練に参加した。(御門御晴会)</li> <li>◇防災訓練に、小中学校の生徒がたくさん参加してくれた。健全育成につながるという。(塚原)</li> <li>◆自主防災会の中に消防隊があり、毎月、自主防役員と消防隊で、ポンプ等の点検実施。防災用タンクからの放水訓練では、小・中・高校生も参加してくれた。(御門)</li> <li>◎要援護者リストを自治会長に渡す時に、要援護者へ配布する笛を一緒に渡している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「黄色いハンカチ」などの仕掛け作りが大切。</li> <li>◎防災訓練に参加できない方が、黄色いハンカチを掲示することで、訓練に参加している意思を示すと同時に、安否確認の訓練にもなる。</li> <li>●HUG 実施後の具体的な指示があるといい。</li> <li>○防災関係は特に連携が必要。</li> <li>●生活防災といい、普段の生活から防災を取り入れ、お祭り等で親睦を深めていきたい。</li> <li>○他の高齢者も是非参加してほしい。</li> <li>◎笛の音を皆さんが知らないと、何の音かわからない。防災訓練時に笛を吹いて、要救助の笛の音を町内で共通認識してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会</li> <li>校区全体 自治会</li> <li>自治会 老人会</li> <li>中学生 高校生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒●「黄色いハンカチ」を使用し、参加者が増加。</li> <li>⇒●運動会で消火器訓練実施。</li> <li>⇒◇老人会対象に図上防災訓練実施。</li> <li>⇒◆放水訓練では小中高生も参加した。</li> </ul>
<b>②要援護者の把握と救助</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●敬老祝い金配布時に高齢者の把握ができ良かった。</li> <li>◇高齢者は把握していない。災害時の対応も話し合っていない。</li> <li>◇災害時の高齢者対応は特に考えていないが、連携は取れると思う。</li> <li>◆高齢者の対策については、町内会長に任せている。(御門)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇要援護者リストを活用してほしい。</li> <li>◇要援護者リストに、本当に救助が必要な人が入っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会</li> <li>自治会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⇒●敬老祝い金配布時に高齢者を把握。</li> </ul>

	現況	課題	担い手	結果・実績
	<p>□昨年 10 月に自治会で調査して世帯台帳を作成した。一昨年より準備をし、必ず世帯台帳を提出するようにしたところ、全員提出してくれた。(緑ヶ丘)</p> <p>◎現在は個人情報保護などで、世帯台帳の作成はたいへん難しくなっている。全世帯、世帯台帳ができたのはすばらしいこと。</p>	<p>□要支援者はかかりつけの病院や血液型なども、世帯台帳に記入されている。今後はその方たちを後押ししていく。</p> <p>◎町内の世帯台帳作成は、大災害時の安否確認に非常に大事。ぜひ各町内で取組んでほしい。</p>	自治会	⇒□全員分の世帯台帳を作成し、情報を把握。
	<p>◆町内会総会には必ず顔を出し、必要があれば話をさせてもらっている。(民生委員)</p> <p>□昨年 12 月に民生委員の改選があったが、錦田地区で民生委員を出していない町内が 2 町内ある。他地区の民生委員が要援護者を調査している状況。</p>	<p>◆各町内会長は民生委員の独居高齢者の調査に同行し、要援護者情報を伝達してほしい。</p> <p>□民生委員の選出や、要援護者リスト作成をしっかりとってくれないと困る。</p> <p>□日常的に民生委員の成り手がいない町内は、早急に体制を整える必要がある。</p>	自治会 民生委員	
	<p>●各班数名に、要援護者を誘導するよう依頼し、行政・民生委員・防災指揮が要援護者情報を共有した。(東富士見)</p> <p>□組長の会合で、「要支援者は各組で対応し、それができなかつたら両隣や役員で対応する。その後全体へ持ってくる」ことを伝えている。(緑ヶ丘)</p>	<p>◇要援護者の救助方法を考えていきたい。</p> <p>□理学療法士や介護福祉士に専門的なアドバイスを受けて、要援護者の搬送方法を皆が学んでいくべきではないか。</p> <p>□町内に福祉施設のある自治会は、一緒に訓練を行なう方がいいと思う。訓練日程を事前に知らせ、交流しながら具体的な搬送方法を学んでいってはどうか。</p>		
<b>③防災体制の強化</b>				
	<p>●役員は 1 年交代。</p> <p>●避難所(小学校)で組織改革を実施。防災は各自自治体単位、小学校では連絡協議会を立ち上げた。</p> <p>□錦田地区は、避難所運営委員会という組織はできているが、各家庭に避難所運営マニュアルが行き届いていない。</p> <p>●仙台市を視察した。震災後、子どもの引き取りが出来ていない状態で避難者が学校に押し寄せ、学校機能が崩壊し、避難所に移行した。翌日、流せないトイレの清掃から住民が協力しあうようになり、避難所として機能し始めた。</p> <p>●持病がある人は医師がいる錦田小に行く想定される。自宅が無事でも、支援物資をもらいに避難所に行く人もいる。(並木)</p> <p>◎錦田小・錦田中に避難所があり、避難所運営委員会ができています。災害時、各町内の問題は町内で解決し、避難所をサポートする方は別において、自主防災と連絡をとっていく仕組みになっている。避難所は家が倒壊や延焼により使用できない方だけが避難する場所。</p> <p>□錦田地区は小学校区単位より、中学校区単位の方がつながりが深いと思う。</p>	<p>●学校等との連携を考えると期間が短い。</p> <p>●錦田自治体連合協議会としてのサポートを考えていきたい。</p> <p>□避難所運営をするにあたり、個々の家庭が安全に避難できるように、人的配置も含めて検討していく必要がある。</p> <p>□救助後の搬送先(病院、福祉施設)の情報収集(収容可能人数等)や連携について、話を詰めていく必要があるのではないか。</p> <p>●◇学校機能から避難所機能に移行する訓練、避難所開設の訓練ができるといい。</p> <p>●◇錦田小は避難所兼、市内 4 箇所の救護所の一つ。各町内から専門スタッフに出てもらいたい</p> <p>●避難者の把握や点呼などの対応を知りたい。</p> <p>□中学校区単位で活動する方が良いのではないか。</p>	自治会 校区全体	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>●以前、錦田小近くの田が冠水し、上にある寺が御門まで流されたことがある。(竹倉)</p> <p>△●谷田で一番心配なのは大場川の氾濫と液状化。各家庭での対応が求められる。(谷田)</p> <p>□錦田地区は自治会数が多く、平坦地から山間地と地形もさまざま。異常降雨による水害や地震災害等で、孤立する地域が出てくる可能性がある。</p> <p>□各町内会で抱えている課題は微妙に異なる。</p>	<p>●市で夏梅木川が氾濫したらどうなるのか、調査してほしい。</p> <p>◎河川の氾濫など、町内の対応を話し合っておいてほしい。</p> <p>◎液状化の危険地域については市に問い合わせしてほしい。</p> <p>◇道も壊滅するような事態を各自治会で想定し、何ができるかを考えてほしい。学校も出来るだけの準備をしたい。(錦田小)</p> <p>□各町内で近くにある市の施設に避難するなど、避難先を考える必要がある。</p> <p>□地形の特性を踏まえた防災、総合的な体制作りが求められる。</p> <p>□まず各町内会単位で話を詰め、それを連携していく方がいい。</p>	<p>市</p> <p>自治会</p>	
<p>○谷田自治会は強制入会ではないので、一人暮らしの人が入ってくれない。</p> <p>◇町内会に入っていない方の把握ができず、災害時に対応できない。(小山)</p> <p>&lt;緑が丘の取組み&gt;</p> <p>●緑が丘では消防の分団に参加せず、ボランティアが自主防災会として訓練を実施。足りないことが多く、組織の規範作りから始めた。</p> <p>●◇◆アパート3棟約30世帯が、自治会に加入せず大問題だった。</p> <p>◆□内規を作り、実行部員を決定。また、世帯台帳に基づき小学校以下の子どもと救助を必要としている高齢者を被補助部員とし、それ以外は補助部員として役割を決めている。全戸自主防災会に登録する。防災会に登録しない場合、緊急時に支援できないことをはっきりさせた。</p>	<p>◇町内会に加入していない人の災害時の対応が課題。</p> <p>◆全体を掌握後、隣組による救助活動等について考えたい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◆自主防災会の組織づくりを進めた。</p> <p>⇒◆防災会に登録しない場合、緊急時支援できないことを明確にした。</p>
<b>④幼・小の防災体制整備</b>			
<p>●園舎の耐震補強はしっかりしている。今は子ども園で待機することになっている。(錦田幼稚園 PTA)</p>	<p>●子ども園でも、いずれは個人の備蓄(水ペットボトル1本、軽食1食分)を用意したい。</p> <p>●子ども園に幼児が400人いるという地区の認識も必要。</p>	<p>子ども園</p> <p>校区全体</p>	
<p>●小学校では、保護者・学校・子ども達で、震災時どう動くかという訓練ができています。その取り組みを自治会には知らない。(東富士見)</p> <p>◇今夏、学校、教育委員会を通し、文科省の親子防災キャンプを企画した。(錦田小)</p>	<p>●学校の防災の取り組みを自治会で取り上げてみてはどうか。</p> <p>◇将来的には自前で親子防災キャンプを行えるといい。</p>	<p>自治会 小学校</p> <p>小学校</p>	<p>⇒◇親子防災キャンプ実施。</p>
<b>2. 子どもの健全育成</b>			
<b>①地域の連携</b>			
<p>◇年間を通して子どもに関する連絡が来る。(錦田小)</p> <p>◇体育部と相談し、夏休みの子ども会のラジオ体操に、町内の人も参加する提案をしている。(押切)</p> <p>◆子ども神輿に、子どもが多数参加。「子どもは地域の宝事業」対象の子も呼び、大変喜んでもらった。(御門)</p> <p>◆錦田中では、今年からサポーターズクラブが活動開始。学校行事に参加するなどして、子ども達と交流をはかっている。(錦田中 PTA)</p>	<p>◇すぐに対応するので何かあれば学校に連絡してほしい。</p> <p>◆ふれあいを通じ、子ども達と面識を持ちたい。</p>	<p>小学校</p> <p>中学校 PTA</p>	<p>⇒◆錦田中でサポーターズクラブが活動開始。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<b>②挨拶の促進</b>			
<p>◇子どもの健全育成は挨拶から始まる。挨拶は、心や健康と通じている。</p> <p>◆錦田小では、各クラス挨拶チャンピオンを出し、全校で称える活動実施。</p> <p>◆錦田中では、今年から「あさげ運動」(挨拶・さわやかに・元気良くキャンペーン)を展開。いい挨拶ができた子は表彰し、啓発している。</p>	<p>◇挨拶の大切さを授業で教えて欲しい。自然な挨拶ができるようにしたい。</p> <p>◇学校で挨拶を指導、習慣化して欲しい。</p> <p>◆□錦田中に行くと8割の子が挨拶してくれた。今年はとてもいい雰囲気になっている。挨拶運動を進めて欲しい。</p>	<p>小学校</p> <p>小学校 中学校</p>	<p>⇒◆小・中学校で挨拶促進。挨拶チャンピオンやあさげ運動など。</p>
<p>◆□挨拶や道徳は学校ではなく家庭の問題。大人も子どもも個人差が大きい。</p> <p>◆子どもには「気にかけている」という愛情表現の挨拶をしていく社会が一番いい。</p>	<p>◆子ども達の挨拶の状態を親が知る機会を作りたい。</p> <p>◆みんなが挨拶する地域づくり、大人が明るく挨拶できる地域社会になることが大事。</p> <p>□挨拶は家庭から。家庭でしっかりしていることが大事。家庭から学校、地域での挨拶運動になる。まずは家庭で、挨拶の意識を持つようにするといい。</p>	<p>校区全体</p>	
<p>◆朝の挨拶運動は定着してきた。</p>	<p>◆挨拶のテクニックとしては、低学年は大声、高学年は丁寧に、中学生は継続する中でわかってくる。また、場面に応じた言葉がけをするなど、考えながら挨拶するといい。</p>	<p>校区全体</p>	
<b>③子どもの見守り</b>			
<p>◇□見守りのメンバーが固定しつつあり、その人が出られなかった場合が不安。(錦田小 PTA)</p> <p>◆毎朝見守りに立ってくれることで、子ども達に感謝や優しさの心が育っていると思う。(錦田小)</p> <p>◇◆不審者対策として、子ども達にスクールガードの顔と名前を教えている。名前と顔がわかると子ども達も安心する。(錦田小)</p>	<p>◇登下校時の見守りをシステム化できるといい。</p> <p>◎各町内でボランティアでやって下さる方を発掘してほしい。</p> <p>□最近少しずつ歩道が整備されてきているが、やはり見守り隊などの力が必要。</p> <p>□下校時が魔の時間。ウォーキングしている団塊の世代以上の方が多くいる。毎日3時に下校を見守る放送があるが、「時間のある方は今からウォーキングしませんか？私たちと挨拶しましょう」など、広報の原稿を少し変更して子どもの声で放送を流すと、挨拶促進になるし、防犯にもなるのではないか。</p> <p>□市からもらえる挨拶運動用のバッジを、防犯パトロール中に散歩している方に配っている。今は腕章を作っていることを考えている。</p> <p>◆顔と名前がわかるような流れを作りたい。</p>	<p>小学校</p> <p>小学校</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇子どもが道路を横切るなど非常に危ない。錦田連合会で飛出し防止の札を貼っている。(緑が丘)</p> <p>◆来年春のインター開通にともなう交通量増加が心配。</p> <p>□伊豆縦貫道ができてから、谷田の遺伝坂の坂下から1号線に向かって、朝の自動車数が非常に多くなり、スピードも速い。谷田の交番前の横断歩道を小学生が多く渡っているが、車道も狭い上に歩道も1人ずつ縦に歩かないといけない状況で、非常に危険。</p> <p>◇送迎時、錦田小の駐車場が不足している。子どもたちが横断歩道を渡ると渋滞が起きる。(玉沢防犯パトロール会)</p> <p>◇子どもの遊ぶ場所がない。</p>	<p>◆子ども、高齢者も多い地区なので、話し合いが必要。</p> <p>□解決法としては、子どもたちの見守りの人数を増やすか、あるいは時間帯を決めて自動車の速度を30キロ以下など速度制限をしてはどうか。行政や警察署とも関係してくるので、相談しながら解決していく必要がある。</p> <p>◇小学校駐車場に関して、対策を考えてほしい。</p>	<p>校区全体</p> <p>小学校市</p>	
<b>④子ども会の存続</b>			
<p>○子ども会が一度中断していたが、今年から復活した。(小山中島)</p> <p>◇□子ども会には自動的に入るが、子どもの数が減っている。このままでは自然消滅する状況。何か助けて頂けるのなら、お願いしたい。(竹倉子ども会、御門子ども会)</p> <p>◇会長のなり手がおらず、祖父だが会長を引き受けた。地域で1～6年生と一緒に活動する機会がないので、大人が手助けしている。(東富士見子ども会)</p> <p>□最近、中学生が防災訓練に参加してくれて、非常に大きな力になると思う。他地域では中学生が祭りを手伝っている。</p> <p>◇若い親の関心がない。塾や少年団の活動等があるので、必要ないという意見もある。(東富士見子ども会)</p> <p>◇共働き世帯の増加、世帯数の減少により役員が何度も回ってくるなど、役員の負担が大きくなっている。</p>	<p>○子ども会の再開をきっかけに地域活動を活発にしたい。</p> <p>□子ども会のサポートについて、ぜひ地域の中で具体的に何ができるか、考えてみてほしい。</p> <p>◇子ども会が盛り上がる、地域のきずなが深まるような方法があれば、意見を聞きたい。</p> <p>◎老人会が子ども会と一緒に活動し、高齢者と子どものつながりを深めている地域もある。</p> <p>□防災だけに限らず、中学生の力をもっと活用していくといいのではないかなと思う。</p> <p>○親の役員負担をどうするか考えるべき。(谷田子ども会)</p> <p>◎子ども会が消滅した町内では、自治会が健全育成会を作り、子ども会と同じような活動を実施している。</p>	<p>自治会子ども会</p> <p>子ども会市</p> <p>自治会子ども会</p>	<p>⇒◇子ども会会長を祖父が引き受け活動継続。</p>
<b>3. 高齢者</b>			
<b>①高齢者の支援</b>			
<p>◆他地区で、お年寄りの健康づくり兼挨拶運動として、ウォーキング実施。楽しみながら子どもと接している。</p> <p>◆昨年、敬老会に15名参加して喜んでもらった。公民館で座談会でもやろうかと話が發展した。(地域づくりコーディネーター)</p>	<p>◆それぞれの地域の事例を参考にし、真似してみると發展がある。事例の共有が大事。</p> <p>◆会を發展させるよう、うまく引っ張ってくれる人がいると良い。</p>	<p>校区全体老人会</p>	<p>⇒◆敬老会で自主的な座談会の開催案が提案された。</p>
<b>②老人会の存続</b>			
<p>◇老人会は去年解散した。(小山台)</p> <p>○老人会は年をとり、解散する老人会が増えている。原因は役員をやるのが大変なことだと思う。(並木老人クラブ)</p> <p>◇昨年、錦田幼稚園を訪問し、交流した活動が市から表彰された。(御門御晴会)</p> <p>◇□町内では年間行事がたくさんあり、子ども会、老人会、自治会と一緒に、お祭りやどん</p>	<p>○高齢者はパソコンができないから書類を作るのが大変。</p> <p>○老人会へ退職後間もない若い世代が入ってくれないことが課題。</p>	<p>老人会幼稚園</p> <p>自治会子ども会</p>	<p>⇒◇幼稚園と老人会の交流がある。</p> <p>⇒◇□老人会と子ども会、自治会</p>

	現況	課題	担い手	結果・実績
	<p>ど焼きなどに参加している。運動会にもゲートボールなどで参加している。(御門御晴会)</p> <p>□御門御晴会は現在、女性部のような組織。一番の悩みは男性の後継者がいないこと。(御門御晴会)</p> <p>◆桜ヶ丘の老人会は毎月1回定例会を実施。誕生日の方を招いた食事会や輪投げ大会、温泉など活発に活動している。</p>	<p>□やはり上に立つ人は男性がいいと思う。男性に元気になってほしい。</p>	<p>老人会</p> <p>老人会</p>	<p>の連携があり、活発な活動を行っている。</p> <p>⇒◆老人会で毎月一回定例会実施。</p>
<b>4. 地域の連携</b>				
<b>①各団体の連携と組織運営</b>				
	<p>○「錦田の明日を考える会」は交通安全協会錦田支部を下部組織に持っており、食育部会などの専門部で組織化している。交通安全勉強会の後に食育部会が流しそうめんを行うので、子ども達、保護者とのふれあいができている。</p> <p>○□錦田地区でも体育振興会が運動会の実行委員をやっているが、体育振興会自体が衰退し、つながりが希薄。</p> <p>◇中学校区には「豊かな心を育てる会」が存在するが、形骸化している。(錦田小 PTA)</p> <p>◇毎年自治会だけで、民生委員、環境美化推進員を推薦するのは困難。</p> <p>□65 歳以上が増え、昔と人員構成が変わったため、団体間の連携がものすごく難しくなっている。昔はできたことが、今は同じ様にはできない。</p>	<p>○ふれあい創出のための活動を各自自治会だけで行うことは大変。活動を継続するには、協力できる組織作りが大切。</p> <p>○自治会と体育振興会の連携が大事。</p> <p>◇「豊かな心を育てる会」を様々な地域の問題を討論し、解決する会にしたい。</p> <p>◇民生委員の活動は、平均月2回。なんとか各町内から、民生委員を出してもらいたい。</p> <p>□自治会も体育振興会、民生委員などと連携していかないと、自治会活動や自主防災会活動も上手くいかないのではないか。各団体と顔を合わせる機会や場が必要だと思う。</p> <p>□各団体との連携をどうするかは、人員構成を考えないといけない。</p> <p>□防災等は別だが、今後は個人の趣味で集まった団体などと連携するようになるのではないかと。</p>	<p>自治会各団体</p>	<p>⇒○会に下部組織があり、ふれあい活動が活発化。</p>
	<p>○事務局の仕事をフォローすれば老人会や子ども会役員の負担が減る。</p> <p>◇役員は全員働いているので、仕事優先にならざるを得ない。</p> <p>◆この校区は複雑な地区割がある。各地区に組織ができると、構成員の参加回数が増える。(錦田中 PTA)</p>	<p>○コーディネーター育成の中で老人会や子ども会の事務局の件も検討してほしい。</p> <p>◇市の会合や活動を土日に行うことを考えてほしい。</p> <p>◆各組織の課題や目的を整理し、組織のスリム化作業を行うべき。</p>	<p>市地域 CN</p>	
<b>②花・環境美化</b>				
	<p>▲ごみの分別ができていない。個人の意識の問題。意識的に声かけを行なっている。(女性懇話会)</p> <p>○学校や子ども園周辺に花を植える活動をしている。</p> <p>○老人会で花を植えているが、ゴミのポイ捨てが減らず台無しになっている。</p> <p>○子どもは公園の使用状況が悪く、対策を取っている。(環境美化推進員)</p>	<p>▲廃品利用など、大人が子どもたちにきちんと教えてあげることが必要。(子ども会)</p> <p>○錦田を花でいっぱいにする活動を行っていききたい。</p> <p>○公の場での行動について各家庭で指導してほしい。</p>	<p>校区全体</p>	